

奈佐の浜に 伊勢湾に 豊かな海を取り戻そう

22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会

川と海はつながっている



伊勢湾流域を発生源とする流下ゴミは年間1万トンを超えと言われており、その2分の1が漂着ゴミとして三重県鳥羽市に打ち上げられる。なかでも答志島は、のり、わかめ、牡蠣などが特産で自然の眺めも美しい島であるが、年間数千トンもの漂着ゴミが押し寄せる。

島民や漁業関係者の方々はなんとかゴミを集めているが、拾っても拾っても次のゴミが押し寄せてくる。島の人達だけでこの問題を解決するには、すでに限界を超えているのだ。

流域圏全てが協力しゴミを減らす必要がある。

伊勢湾の漂着ゴミ



平成21～22年の調査によると流木等の自然系のゴミが82%と最も多く、漁業系、生活系、事業系のゴミは4～6%でほぼ同じ割合。自然系のゴミを除く人工物の割合は、漁業系33%、生活系28%、事業系22%だった。三重県内の海水浴場14か所で回収されたライター94個を調べたところ、内陸部のものが含まれており、また、GPS発信器を付けたペットボトルを三重県の6河川の河口部から放流したところ、18本中10本が伊勢湾内に漂着し、うち6本が答志島に流れ着いた。

これらのことから、海岸漂着物の多くが陸域を発生源とし、その多くが答志島に漂着する現状が確認された。

活動内容



<奈佐の浜での清掃活動>



<答志島での漁業体験>



<エクスカーション>



<流域圏での清掃活動>

流域×世代



<広報動画の作成>



<奈佐の浜のレポート>



<川から海までの中継>



<小学生の交流会>

毎年、奈佐の浜の清掃を実施するほか、伊勢湾流域での勉強会や交流会、清掃活動などを通して流域のつながりを伝える活動を行っている。子どもから大人まで幅広い年代に活動に参加してもらうことで、100年後を見据えた多世代間交流にも努めている。

コロナ禍により現地での大規模な活動は難しくなったが、動画配信やオンラインでの交流会を通して活動を継続している。

今だけでなく10年後、20年後、100年後も見据えた取り組みを！



SNSでの発信も行なっています

